



# Pure Pacific 純パ No.170 Nov.2013

純パの会会報『純パ』第170号

2013年11月30日発行

発行：純パの会 〒161-0032 東京都新宿区中落合3-13-1 塚原方

## イーグルスとともに歩んだ「夢」

梅村 宣代

2004年、私が応援してきた近鉄バファローズが消滅しました。一度も日本一になったことのないチームが「いつかは日本一」になることを夢見て、応援していました。

当時、私の中のオリックス・バファローズは、あくまでもオリックスというチームで、近鉄バファローズと合併したチームだとは思いませんでした（今でも思っています）。愛すべきチームを失った私が新しく応援するチームは、やはり、新しく生まれた東北楽天ゴールデンイーグルスしかなかったというところでしょうか。

しかし、そのときのイーグルスは、2004年の関西純パの納会で、「開幕投手が誰か？」というより、「開幕投手すらいらない」ということが話題になっていた状態（岩隈の移籍が決まったのは納会の後）、2005年、球団創設初年度の成績はみなさんもご存じのとおり。そして、私の「いつかは日本一」の夢は、イーグルスとともに歩むことになりました。

東京・福岡・札幌……と各地の球場へも遠征していた私が仙台に初めて行ったのは、2005年9月末のことでした。三重の自宅から明日行こうと思っただけで行けた大阪とは違い、飛行機利用なので、早くから計画を立てる必要があります。週末の2試合観戦としても、デーゲーム終了後の帰宅は無理で、最終便で帰ってセントレア（中部国際空港）のホテル泊、または、仙台に宿泊して翌日帰るということになります。3連休、もしくは、1日休みをとるという状況での観戦となります。しか

も雨天中止のリスクが……実際、仙台に行ったものの、1試合も見られずに帰ったことが過去9年間に2度ありました。それでも、やはりホームで見たいという気持ちは強く、毎年3〜4回仙台へ足を運び、5〜8試合は観戦してきました。

今年のイーグルス。もしかするともしかするかも……と思いつつも、「CSに出られたらうれいなあ」ぐらいの気持ちで見えました。7月に首位に立ったときには「今行かないと首位のイーグルスを見ることはありえない」と思い、2度仙台に出かけました。8月末には「まだ首位にいるんだ」と思いながら福岡へも……

シーズン終盤になり、緊張するのかもしれない、経験がないことで逆に緊張しなかった（？）若い選手たちが、両外国人を初め松井選手たちに支えられながら、優勝を勝ち得たように思えました。

日本シリーズはチケットが入手できず、テレビ観戦となりましたが、毎試合祈るような気持ちで見ました。第5戦の延長での勝利、そして、もちろん第7戦では、9年間のいろいろや、震災の年の嶋選手の言葉がよみがえり、涙が止まりませんでした。こんなに早く「日本一」になれるなんて、思ってもいませんでした。

純パの順位予想では、毎年、イーグルスを1位にして、後の5チームを並べてきました（それは、つまり1位予想のチームを2位にする）。今は、「いつかは日本一」の夢をかなえてくれたイーグルスに感謝の気持ちでいっぱいです。